

令和6年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」

●R6年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現状の数	単位	本年目標値
092011_宇都宮市	①学校運営上の課題	教職員の時間外勤務の是正	・新型コロナウイルス感染症拡大の影響の一部受け、「魅力ある学校づくり地域協議会」の取組が減少しており、令和5年度より回復傾向にあるものの、保護者及び地域住民等と連携した地域とともにある学校づくりの推進が課題となっている。	・令和5年度より「コロナ・リカバリープラン」として、地域の教育資源を生かした学習活動を推進している。	・学校においては、校長のリーダーシップのもと、地域の教育力を生かした特色のある教育活動を展開する。 ・保護者や地域の声を学校評価に生かし、学校経営の改善を図る。 ・地域学校協働活動を担う「魅力ある学校づくり地域協議会」、「宮っこステーション」などによる地域の教育力を活用した活動を支援する。	・学校と家庭・地域・企業等の連携・協力により、子どもたちを育む「地域の教育力」の向上が図られる。	・「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」と回答した保護者、地域住民の割合	93	%	92
092011_宇都宮市	②学校と地域の課題	学校支援ボランティアの確保・育成	・児童生徒が登下校する通学路等の安全確保について、教職員の見回りなどの負担軽減が課題となっている。 ・学校における働き方改革に資する学校教育支援活動等の安定的な実施のため、活動の担い手となる人材の確保が課題となっている。	・小中学校区ごとに、「魅力ある学校づくり地域協議会」における人材バンクの整備や、地域学校協働活動推進員の複数配置を推進しており、昨年度は、登下校に関する対応については、全ての小学校と約7割の中学校において、学校教育支援活動については全ての小学校と中学校において行われた。 ・今年度は、活動の継続や拡充を支援し、教職員の負担軽減と人材の確保を図る。	・安全確保のための地域ボランティアや学習支援ボランティアの周知、学校との連携に関し、好事例を紹介する。 ・人材バンクの整備や学校支援ボランティアの登録制度の活用を推進する。 ・活動コーディネートの一層の推進のため、地域学校協働活動推進員の複数配置を推進する。	・児童生徒の安全確保や学校教育の充実について、地域の教育力を生かした活発な活動により、教職員の業務負担が軽減する。	・魅力ある学校づくり地域協議会による学校教育支援等活動回数(学校の授業支援や登下校時の見守りなどを含む。)	22,234	その他	22,300
092011_宇都宮市	③学校と家庭の課題	放課後等における多様な体験活動	・放課後等における子どもたちの多様な体験活動が減少しており、機会の確保が課題となっている。 ・家庭の経済的事情等に左右されず、誰もが学習の支援を受けられる環境づくりが課題となっている。	・放課後子ども教室事業について、全67市立小学校(小規模特認校除く)での活動実施に向けて取り組みを進めており、令和5年度は57校で実施した。また、活動の企画立案を担うコーディネーターが活用する「活動アドバイザーリスト」の充実を図った。 ・地域未来塾について、モデル事業の実施や学習支援員の派遣などの開催支援を行い、令和5年度中に市内25市立中学校のうち18校で開催することができた。今年度は、実施校数の拡大を目指し、学習支援を必要とする生徒へのより一層の支援の充実を図る。	・今後も継続して、放課後子ども教室事業未実施校区における地域の各種団体に対して、積極的に新規立ち上げへの働きかけを行うとともに、実施校区に対しては、地域ぐるみで子どもを育む環境づくりの充実に向け、学習支援やスポーツ・文化活動、交流活動への支援を行っている。 ・既に実施している地域への実施方法についての情報提供や、未実施地域への地域の実情に応じた導入支援を行うなど、地域未来塾の開催支援を行い、令和6年度中に市内25市立中学校のうち20校での開催を目指す。	・活動の企画立案の支援などにより、活動に係る担い手の負担や不安が軽減する。 ・学校・家庭・地域が互いに連携・協働し、希望する生徒の学習支援の環境が整い、参加する地域学校協働活動推進員等の活動者や、生徒の数が増加する。	・地域における学習支援や体験活動等の教育活動に参加する活動者数及び児童生徒数	132,363	人	167,000